

鴻巣市立田間宮小学校(創立151年) 学校だより

令和6年度10月



たまみやっ子

— 夢に向かって 心豊かに 伸びゆく子 —

たくましく元気な子 まじめに勉強する子 みがき合い高め合う子 やさしく助け合う子

ことばに込められた思い

校長 若林 朋子

この夏は、記録的な暑さとなり、運動や外遊びが制限された日が続くことがありましたが、ここに来て、やっと朝夕の風に秋が感じられるようになりました。また、通学路の田んぼの稲穂も黄金色に輝き始め、**秋の実り**を景色の中でも感じられるよう



うになりました。そんな風景に出会うと、「**実るほど首を垂れる稲穂かな**」ということわざが頭に浮かびます。この言葉は、単なることわざにとどまらず、日本人の心に深く根差した価値観を表しています。このことわざを通して、私たちは、**謙虚さ、感謝の心、そして学び続けることの大切さ**を学ぶことができるでしょう。

先日、1年教室での授業を参観した時のことです。書写の授業で、水筆を使って文字を書くという学習をしていました。水筆を使う際、鉛筆を持つ持ち方で水筆を持つことが本時の学習のポイントの一つでした。そこで、担任の先生は、「このように水筆を持ちます。」と指導されていました。すると、1年生の子どもたちは、水筆を持った利き手を先生に見えるよう差し出し、「**こうでよかったですか?**」と、何人もの子どもたちが丁寧な言葉づかいで確認していました。その時担任の先生は、一人一人の水筆を持った利き手を見ながら「それでいいです。」「持ち方が少し違います。」と、子どもたち一人一人に対し、丁寧に指導されていました。何気ない、授業の一風景でしたが、この授業で発せられていた子どもたちの丁寧な言葉遣いには、「**担任の先生に対しての礼儀**」や、「**この時間しっかり学びたい**」という子どもたちの思いが感じられました。その空間にいた私の心が、とてもあたたかくなったことは間違いありません。日本には**言霊**という言葉があります。言葉には、その人の思いが込められ、**言葉には力がある**と、改めて感じた瞬間でした。

さて、令和6年度がスタートし、6か月が経ち、ちょうど折り返しの時期となりました。学級での学びの様子や友だちとの関係においても、全体的には落ち着いてきたように感じます。下半期である10月から3月までの6か月間は、次年度へつなげる大切な期間でもありますので、これまで同様、教職員一丸となって教育活動を行ってまいりますので、引き続きご理解・ご協力賜りますようお願いいたします。